

15歳の心を捕らえて離さない道徳教材

内田 文夫

毎年、新学期の4月8日。この日は新しい教科書の配布が行われる。自分の好きな、得意な教科書の教科書を食い入るように読む生徒が必ず少なからずいる。道徳もしかり。彼らの眼には「特別な教科 道徳」はどう写っているのだろうか。彼ら流の「着眼点」「面白い」に着目し、「教科書」になり、そこに掲載されている「教材」について彼らの関心の高い、また同時に教育の最重要指導項目と考える①「生命尊重」②「人権尊重」の2つの項目に絞り、論評を試みたい。

また、中学生は中1～中3と心も体も成長が著しい時期でもある。今回、中学校3年生、15歳の眼にどう写っているかに焦点を絞ってみた。第二次成長期に入り、ルールや大人への批判が、それもまっとうな批判力が備わる時期である。それも女子の場合男子に比べてその力が純粋なだけに、時に、たじたじとなる。その純粋な着眼点に注目したためである。

中3、15歳に限定した直接的な理由が二つある。二十代～三十代、中学校の担任を務めていたときに忘れられない、そして道徳教育に心を開かされた、苦くもさわやかな体験があるからである。

その1. 二十代の道徳指導に面白さを感じ、依頼される研究授業にいつも名乗りをあげ、実践していた時期に、道徳教材の面白さ、奥深さを知った「善いことの恐ろしさ」という教材で研究授業を行っていたときのことである。練りに練った指導案、自信を持って挑んだ授業のほずであったが、最後の「主発問」の答えを授業が始まってまだ、20分そこらで発言した女子生徒がいた。頭の回転の速い、聡明な生徒である。授業展開の序盤から中盤にさしかかる時に答えられてしまった。冷や汗はでるは、その後をどうつないでいこうか、指導案はぐちゃぐちゃになり、しどろもどろで授業を終えた。道徳は恐ろしい。しかし、面白い。

この前後に新設された飯能市教育センターの1期生として訪れた静岡市立安東小学校の全国研究発表を参観し、指導助言にあたっていた上田 薫(当時 東京教育大学教授)の教育に対する考え方、理論、実践方法に感銘し、以後、私の道徳教育の根幹、生徒に対する見方等に1本の太い柱として根を張ることになった。上田の考えを紹介する。

- 1) 公開授業では自分の一番苦手なところをやってみること。
- 2) 授業案の形式は各自が工夫して個性的なものにすること。
- 3) 人に授業を見てもらうときには必ず座席表を用意すること。
- 4) 一人一人のこどものカルテを作ること。
- 5) 十分に都合のよいものは捨てよ。都合の悪いものへこそ、身を寄せていけ。それが教師の裸の姿勢である。期待した答えだけを求めて、いらだちながら子どもたちの頭上をさまよいるくあの見にくい空転にだけは落ち込むまい。
- 6) もう裸以上にむきようがない、自分の力はそれまでなのだから、どうされても仕方がないのだというふてくされた謙虚さに徹すること。
- 7) すなおさへ自分を落ち着かせるということは、だれにも出来る。人間はそのとき自分の限界をはっきりとらえる。子どもの顔もしっかり見つめることができる。
- 8) 座席表はそのときどきのものを保存し積み重ねてみるとよい。カルテのためにも生きるし、

指導への反省になる。

9) カルテは教師が自分の予測と食い違ったものを発見したとき、すなわち「おやつ」と思ったときそれを簡潔にするべきである。

① 以上「ひとりひとりを生かす授業—カルテと座席表—上田薫/静岡市立安東小学校著 p11~15」

当時、専門教科であった国語で実践してみたがいかにせん 200 名の生徒のカルテの制作は困難をきたし、担任学級に絞り、道徳で実践したところこれが見事にはまった。いらい、私は本大学の指導案作りでも奨励している。

その 2. 転任した二校目の 3 年生を担当していた時期の 12 月。折しも進路決定のための三者面談が開かれ、連日、資料作成等に忙殺されていたある日、道徳の授業の準備が全く出来ず、休み時間の十分間で教材に目を通し、授業に臨んだ。可もなく不可もなしだな、と思っていたその日の生徒との交換ノートにある女子生徒が以下のような内容を記述してきた。

「連日、私たちのために三者面談の準備、資料作成でお忙しいこと、誠に感謝申し上げます。ありがとうございます。その上で、一つ申し上げます。今日の道徳の授業は、いつもと違って手抜きをされていませんか？先生らしくありません。どうか、次回からはいつものドキドキワクワクするような授業をお願いいたします。」

穴があったら入りたいとは正にこのことで、私は赤のペンで何度も謝罪の言葉を書き連ね、二度とこんなまねはしないと誓いの約束まで記したのである。その生徒はニコニコ笑っておりました。道徳は恐ろしい。しかし、面白い。

15 歳を甘く観てはいけない。最大のリスペクトを持って授業に臨まないといけない。若き日の私は二人の俊才な 15 歳から教えられ、以後、道徳教育の面白さにのめり込んでいくきっかけになったのである。

次に、本論の進め方について記す。途中、今も敬愛してやまない方々の著作等を引用しているが、敬称は略させていただいた。また本論は以下の 3 本の柱を中心として論を進めたい。

- 1) 優れた教材との出会い
- 2) 優れた教材の持つ意味と特徴及び現行の問題点
- 3) 現行の道徳教科書に掲載されている教材についての論評

1. 優れた教材との出会い

道徳が「教科」となる以前、「副読本」と呼ばれていた時期に、①入間地区②埼玉県③関東④日本国内の順で着目されていた 5 社に絞って論評を試みたい。ある出版社の営業職の方の言葉であるが、ある特定の学校、特定の市町村で道徳指導が盛んな地域は日本中に多くあるそうである。文科省の委嘱等があればなおさらである。しかし、私が中学校教員として過ごした埼玉県の入間地区のように、広範な地域で長年にわたり中身の濃い研究授業や発表等が実践されている地域はここだけだという。そんな恵まれた中で私は育てられた。そこで度々話題に上っていたのが以下の 5 社である。

- ① 廣済堂あかつき
- ② 教育出版
- ③ 東京書籍

④ Gakken

⑤ 日本文教出版

今回上述の5社の教材のほとんどが「読み物教材」と呼ばれている類いのものである。

この、「読み物教材」に対しては批判も多い。

「～読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど～」
(文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別な教科 道徳)第一章総説
P2)。私はこの指摘に対し、少々異なる立場で論評したい。

文部科学省が作成した「私たちの道徳 中学校版」(中学校版はこれ1冊で、小学校版は低中高と三部冊構成になっている)だが、今年度本講座でも使用させていただいたが、受講された学生の多くが道徳教材として適しているとしてあげたものが、

「言葉の向こうに」

「帰郷」

「キミばあちゃんの椿」

「二人の弟子」(原作 西野真由美)

「二通の手紙」(原作 白木みどり)

「一冊のノート」(原作 北鹿渡文照)

「卒業文集最後の二行」(原作 一戸冬彦)

などであり、これらは正に、登場人物の心情や、行動について思考検討させる展開になっている。しかもいずれの教材もかなりの長文である。なぜか? 1970年代から1990年代まで道徳教育界を席卷したのは文部省初等中等教育局教科調査官(道徳)を務めた井上治郎と青木孝頼の考え方である。

青木は、『「価値の一般化」に基づく学習指導過程を提案し、導入段階において「ねらいとする価値への方向付け」を行い、展開の前段で「ねらいとする価値の中心資料における追求と把握」を展開後段では、「資料を離れて、価値の一般化を図る」』(道徳教育を学ぶための重要項目100 教育出版)といった構図を提唱し、当時の文部省や各都道府県の教育委員会のホームページにはそのやりかたのサンプルが掲載され、研究授業ではこのやり方だけが正当派のようにもてはやされた。それに対し井上は、青木の「資料で」という立場を批判し、あくまで「資料から入り、資料で終える」というやり方を主張した。興味深いのは、小学校の高学年の児童や中学生は青木の主張した道徳授業の展開に辟易し面白くないと批判していたことである。どんなに面白くて興味をそそられる内容の資料(教材)でも、登場人物の言動に心奪われても、指導教諭から「はい、では、一旦資料から離れて、現在の自分たちの生活に映してみよう、自分たちの生活を省みよう。」と毎回、同一のパターンで授業が展開されるものだから、道徳の授業は「つまらない」「ワンパターン」といった批難、批判が表立っては出なくとも、担任が帰った後の休み時間に彼らに直接聞いてみたところ上述したような感想がいくつも出たのである。

その点、井上が編集を手がけた資料(教材)で授業を展開している学級の子どもの表情が一様にわくわくしているように感じたのは、やはり資料(教材)そのものが持っている、面白さ、興味深さではなかつたのだろうか。井上が手がけた資料はその殆どが長く、複雑な内容になっている。考えて見れば、私たちの心の中は、単純ではないのだから当たり前と言えども当たり前である。

例えば、「二通の手紙」の原作者の白木みどりは元々中学校の教員であり、その道徳に対する

熱く、熱心な勉強ぶりが認められ上越教育大学に留学し後に同大学の教授となっている。白木みどりらに強く多大な影響を与えたのは間違いなく、井上次郎であろう。井上は編著を務めた「新編道徳自作資料選集（明治図書）1990 p9」の中で以下のように述べている。

「～私たちがよしとするのは＜特殊具体の状況における特殊具体の人間の生きたさまをさながらに描いた作品＞である。私たちの考えでは、資料（教材一注。以下同）がこの要件を満たしておれば、話題の中心人物の生き方に関して是非の品評を求められた子どもたちは、おいそれとは判断をくだそうにもくたせない。したがってまた、だれかれの是とする品評にも、反対の非とする品評にも、にわかには追随しがたいものを覚える。いきおい、ひとそれぞれが現に温めつつある＜道徳＞に照らして、自分なりの判断をあえて表明せざるをえなくなる。これこそが私たちの望むところで、この事態を組織化して子どもたちの道徳をつくる営みを盛りたてるのが、私たちの考える道徳授業のねらいであることもさきに書いたとおりである。

広く出まわっている既成資料を見渡した場合、私たちは例えば以下のような点で、それらの大半は使いものにならないと判定する。

- ① 非の打ちどころのない、きれいごとの話が多すぎる。これでは子どもたちもまゆつばだと考えるだろうし、それをまゆつばだと考えない子どもたちをそのままにしたのでは、また何をか言わんやである。
- ② 主人公の、少なくとも一面では非の打ちどころのある生き方を描いた資料についてみても、当該主人公のそうせざるをえなかった事情や心理が、しかるべく書ききれていない。したがって、けなすコメントはりあうに足る、あるいはそれをうわまわるかばうコメントなどは期待すべくもない。
- ③ ①、②で指摘したことは、換言すれば、生身の人間の、さもあらなんとと思わせるような生き方を描いたものになっていないということである。読み手にまず共感や同情の念を喚起しないではおかない人間の生き方が造形されていないということである。これでは子どもたちがまともにとりあわないのも当然である。

こういった主張に合致した創作教材を、井上は「断るまでもなく、ここに収録した道徳自作資料はいずれもみな、その取材と最初の草稿を、小、中学校の教育現場にいるなかまたちの労に迫うものである（新編道徳自作資料選集（明治図書）1990 まえがき p1~2）」と述べ、編著としている。井上次郎をリスペクトしているであろうと推測される白木の創作教材「二通の手紙」も長編で、登場人物も多岐にわたり、主人公の「元さん」とその同僚の心情、約束を守れなかった幼子二人の母親の心からのお礼の手紙に記された感謝の心情とが絡み合い、いい加減な読み方をしては判断を誤りかねないものとなっている。しかもこの「二通の手紙」は今回の論評では触れないが、前述した5社全てに掲載されているのは偶然ではあるまい。優れた教材はいかなる編集者の心も打つのであろう。他の「言葉の向こうに」「帰郷」「キミばあちゃんの椿」「二人の弟子」（原作 西野真由美）「一冊のノート」（原作 北鹿渡文照）も長いものが多い。では、それを読む中学生たちには長く、難解なのであろうか。私は、副読本から離れ、井上の編集した資料を用いて授業を实践したことが何度もあるが、生徒の順応性は高く、三～四回後には「気になる箇所」や「心に残る箇所」等にサイドラインを引けるようになっていく。長い資料にクリームをつけるのはいい加減な準備だけで授業に向かおうとする手抜き教師だけで

ある。

話は若干それるが、ある出版社の編集委員に選ばれた席上で、一つの資料の長さが問題になったことがある。編集上の理由から長さを三分の一ほどカットしたいといった編集者に、その場面をカットしたら登場人物の道徳的心情がぼやけ、なぜ、そのような行動を取ったのかぼやけてしまうと反対した委員がいた。結果として「商品として、これでは長すぎるといった批判が現場（学校）で出ている」といった理由が持ち出され、カットされたことがあった。その委員は即座に委員を辞退した。「これでは道徳の副読本としての価値は半減する。」と。その委員は現在、六〇代後半であるが、今でも講師として中学校の現場で生徒と熱い道徳論議を交わしている。

また、今から40数年前から、恐らく、私が最初であると自負しているのであるが、「マンガ」を用いた道徳授業を展開したことがある。学校内の道徳部会に働きかけ、自作の道徳資料の良さを判断してもらったことが度々あった。3～5作品を毎回俎上に載せるのだが、「検査」に通ったのは良くて1～2資料で、殆どは毎回「ボツ」であった。そのとき検査に通った資料を、人間地区道徳研究協議会の夏期研修会で発表したところ多くの方の賛同を得たが、苦い経験もあった。

教育委員会から推薦で研究授業の委嘱を受けたことがあり、私は当該校の校長の了解を得た上で「マンガ」（「ホテル」石ノ森章太郎・ビッグコミック 小学館）を資料とした指導案を作成した。指導者は比企郡の小学校の校長であった。たまたまその校長から研究授業の打ち合わせの電話があり、準備の進み具合等話が進み、「ところで、何の資料を使って授業をされるのか？」との問い合わせに、私は「～のマンガを使って行います。」と告げたところ、しばらくの間無言が続き、先ほどまでとは別人のような強い口調で「ダメだ。マンガなんかではダメだ。資料を変えるように。いいね。分かったね。」これだけを言うと電話は切れた。私は事の顛末を校長に話し、資料を読み物資料に変えざるを得なかった。

では、道徳授業に使用される資料の特徴とは何か、次節で述べたいと思う。

2. 優れた教材の持つ意味と特徴及び現行の問題点

- ① 主人公の、少なくとも一面では非の打ちどころのある生き方を描いた資料についてみても、当該主人公のそうせざるをえなかった事情や心理が、しっかりと描き出されていること。
- ② 人間としてのずるさや、弱さが正直に、丁寧にえがかれていること。
- ③ ストーリー性がしっかりとあり、表現が丁寧であること。
- ④ マンガの場合、描かれている絵が緻密で丁寧であり、読者の眼を引きつけて離さないこと。（私が扱った作者は、手塚治虫、石ノ森章太郎、弘兼憲史、ジョージ秋山などである）

このように考えれば、「読み物資料」「マンガ教材」への批判は当たらないであろう。要は、実際の授業でそれらを用いる教師の力量に罹っていると考えてよい。

では、全国の中学校の教師は全て力不足で、指導力の不足している者ばかりであろうか？私は本大学に勤務する前の年、市内のH中学校に拠点を置き、市内の4校の新任教師の指導者の仕事に就いたことがある。N中（数学1名）、M小（2年生指導）、M中（英語1名）、そしてH中（数学、英語各1名）。彼らの専門教科の指導力は私の予想を遙かに上回り、英語の発音、

speaking は外国人そのものであり、数学の指導は、「こんな教わり方をしたら数学を嫌いになる子はいないだろう」と思わせる出来栄であった。小学校2年生の担任を任された教諭は生徒指導上、かなり問題のある児童を学級内に含んでいたが、度重なる授業中のいたずらにも、彼女は腰を落とし、児童を上から視線でなく、「彼」の視線で、ゆっくりと、ダメなモノはダメと、何度でも「指導」を行っている。それほど優秀な彼らであるが、一様に困り抜いていたのが道徳の授業である。専門教科のように、子どもたちが波に乗ってくれない。焦れば焦るほど、子どもたちはしらけてくる。これは新任教師の力量不足なのか？いや、そうではあるまい。

ここで、学習指導要領総則に記述されている道徳教育の役割について掲載する。

「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に関する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として公共の精神を貴び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。」

これほど多くの内容を詰め込んだ指導をするよう求められているのであるが、大学の教職課程での「道徳教育」に関する必要単位数と時間は、令和の時代になっても昭和の時代と変わらず2単位15時間である。

『2012（平成25）年3月の文部科学省に設置された「道徳教育に関する懇談会」（以下、懇談会と略）は合計10回の審議を行い、「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）—新しい時代を、人としてよりよく生きる力を育てるために—」（以下「報告」と略）

この中で、大学の教員養成課程におけるカリキュラムの改善、現行では2単位となっている「道徳の指導法」の履修単位数を一定程度増加させることや～中略～各大学には道徳教育を充実させた専攻や道徳教育コースの設置などの積極的な取り組みを求め～後略』（「道徳の時代をつくる！」p16 押谷由夫編著 貝塚茂樹著 教育出版2015）と貝塚茂樹は取り上げているが、文部科学省にはカリキュラムを改善し、取得単位数を増やそうとする動きは全く見られない。要求する中身の量と質は多く高く、それでいてたった2単位15時間のままである。英語、数学といった専門教科の取得単位数は50～60単位と多く、演習やゼミで学生は多方面の場面を想定した指導を要求される。新任教師の数学、英語といった専門教科授業が上手く、魅力に溢れているのも道理であり、道徳授業が上手くできず、悩むのもまた道理であろう。

道徳の指導方法・展開は主なものでも

- ① 読み物教材を用いた授業
- ② 「偉人伝」を用いた授業
- ③ 視聴覚教材を用いた授業
- ④ 構成的グループエンカウンターを用いた授業
- ⑤ モラル・ジレンマ学習を用いた授業
- ⑥ モラル・スキル学習（MSTーモラル・スキル・トレーニング）を用いた授業

⑦ 役割演技 (ロール・プレイ) を用いた授業

⑧ マンガ教材を用いた授業

などがあり、できることならば、各大学の指導者も、その一つ一つ模擬授業で体験させたいところであろうが、15回の授業では「読み物教材」に主眼を置くのはやむを得ないことではないだろうか。

かつて入間地区道徳研究協議会の副会長を仰せつかっていた時、毎年二～三校の学校から研究授業の指導者としてお招きいただいた時に、こんなやりかたもあります、既にご承知だと思いますが、と「モラル・ジレンマ学習を用いた授業」の展開を紹介したところ、管理職以下大好評であったことがある。知らないのである。それは勉強不足、研修不足ではない。大学の2単位、15時間では「読み物教材を用いた授業」しか存じ上げないのも無理ないのではないだろうか。

同様の思いをしたことがかつてあった。飯能市の道徳教育研究会の研究会長、入間地区道徳研究会の副会長をしていたとき、各学校、各地域から選出された代表者の顔ぶれが少なくとも25%から30%が新任かせいぜい二～三年目の若い教員であったことである。いずれの小中学校でも教育目標の大半は、その文言こそ異なれ、①知育の向上②体育の向上③心の在りようの向上の3つであろう。それほど大切なモノであるにもかかわらず、新任教員や二～三年目の教員を送ってくる管理職、特に校長はどんな思いで送り出してくるのであるだろうか。これが生徒指導や教育相談、進路指導の部会では決してこうはならないであろう。

文部科学省は「心の教育」の充実を挙げながら、教員の卵となる大学の教職課程の改革に乗り出さないのはなぜだろう。現場の教育委員会や管理職の研修に任せっきりにするのではなく、道徳教育の歴史、理論で2単位、指導方法の理論とスキルで2単位、模擬授業に特化した実践で4単位、合計8単位ほどあれば、もっと現場の指導力は向上することは間違いないであろう。

3. 現行の道徳教科書に掲載されている教材についての論評

では、いよいよメインの題材について論評を試みたい。今回取り上げる教科書は、副読本と呼ばれていた時期に好評を博した以下の5社を取り上げる。

- ① 廣済堂あかつき (以下 あかつき)
- ② 教育出版 (以下 教出)
- ③ 東京書籍 (以下 東書)
- ④ Gakken (以下 Gk)
- ⑤ 日本文教出版 (以下 日文)

また、評価項目は以下の3点とした。

A 内容が生徒の心を捕らえて離さないものであるか (◎10pt ○8pt △5pt)

B 複数の価値が重複する構造・構図になっているか (◎10pt ○8pt △5pt)

C 内容に即したイラスト・写真になっているか (◎10pt ○8pt △5pt)

平成から令和になっても「若者」の心を捕らえて離さない音楽や映画がある。例えば「B,s」。その歌唱力と抜群のギターテクニックだけではなく歌われている歌詞の内容が常に社会の世相を斬りとり、媚びることをしない。中島みゆき、米津玄師やWANIMAも同様である。弱者に目を向け寄り添う姿勢は中校生の心を捕らえて離さない。映画でなぜ、「君の名は」「天気

子」「鬼滅の刃」があれほどヒットしているのか。誰の心の中にもある、優しさ、思いやり、利己ではなく利他、寄り添い理解しようとする謙虚さ、内省し、倒れてもまた立ち上がる純粋さ、それらを包括しているからではあるまいか。

10代のピュアで透明な心に訴えかけてくる、評定の5段階や10段階の数字で「評価」されることのない道徳は彼ら10代の心の叫びの場と言えよう。だからこそ、その内容に対してはシビアなものが要求される。井上治郎が児童生徒をリスペクトして資料の吟味に力を入れたように、教科書のモデルの文部科学省版の読み物資料が井上版のように読み応えのある複雑でワクワクするような内容であるように、上記した5社の資料がどれほどのものであるか以下に記したい。

ご承知のように道徳の指導項目（指導内容）は22の項目から構成されているが、今回は、私が最も重要、大切なモノとして大学の講座でも取り上げている以下の2つの項目に絞って資料を選出した。

(1) 生命の尊重—命はなにものにも代えがたく尊ばなければならない

(2) 人権の尊重—差別のない公平、公正な社会こそ人が幸せにくらすことのできる最低限な状況である

この2点の項目については、2014年から千代田区立麹町中学校の校長を務め（2020年3月退職）教育再生実行会議委員、経済産業省「未来の教室」とEdTec研究会委員を歴任している工藤勇一もその著『学校の「当たり前」をやめた。』（時事通信社2019）の中で、

「『世の中まんざらでもない！大人って結構素敵だ！』ということを教えることが最上位の目的です。」

「教員が、子どもの指導・支援で用いる言葉は、子どものその後の生き方・価値観に影響する大切なメッセージです。」

「命や人権に関わること、差別や暴力といった行為には厳しく対応し、自身の行動の意味を認識させる必要があります。」

「前略～こうした話を聞いたり、互いに意見を述べたりすることで、さまざまなことが共有されていきました。みんな違っていい。しかし、同時に、誰もが大切にされるべきです。この両立を考えていくことが重要です。」

「社会にとって、よい行動を行うことができる人を増やす。心の教育はそのことを実現するための手段です。心の教育は大切だと日本中の人が考えていると思います。私もその一人です。しかし、よい行動を行うことができる人間を育てるために心の教育があるということが見失われていると感じることがあります。」

「私は1年生全体の道徳の授業を年度の初めに行っていますが、そこでは命、人権を大切にすることと、差別をしてはいけないことの重要性について話します。人を差別する心を完全に消し去ることはできないかもしれないが、そのことを意識すれば、差別をしないことは誰にでもできる。そうした人間になることこそが大切だと生徒に伝えていきます。」

と述べている。少々長い引用で恐縮だったが、私がなぜこの2項目に絞ったかおわかりいただけたかと思う。ミニ社会といわれる学校の中でおこる様々な問題、その殆どが「命の軽視」「人権の軽視、差別の横行」によってもたらされているといったら言い過ぎだろう

か。私は講座の中で、学級経営の柱の中に必ず取り入れるよう指導しているのもそのためである。前置きが長くなった。選出した5社を一覧表にまとめてみた。

廣濟堂あかつき

出版社	指導項目名	教材名	A. 内容が生徒の心を捕らえて離さない	B. 複数の価値観が重複する構造か	C. 内容に即したイラスト、写真か	4. 小計
廣濟堂あかつき (編集委員) 中学校関係者 12人)	生命尊重	1. リクエスト	花丸-15	○-8	○-8	31
		2. 誰かのために	◎-10	◎-10	◎-10	30
		3. ひまわり	◎-10	◎-10	◎-10	30
		4. 母と子のロードレース	◎-10	◎-10	◎-10	30
		5. ドナー	◎-10	◎-10	◎-10	30
		6. 風に立つライオン重	○-8	◎-10	◎-10	28
		7. ほっちゃんれ	○-8	○-8	◎-10	26
		8. 海と空—檉野の人々重	◎-10	◎-10	◎-10	30
		9. 高砂丸とポトマック川	◎-10	◎-10	◎-10	30
		10. 千年先のふるさとへ	◎-10	◎-10	◎-8	28
	人権尊重	1. 山寺のびわの実	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
		2. 優しいうそ	◎-10	◎-10	◎-10	30
3. 卒業文集最後の二行		花丸-15	◎-10	◎-10	◎35	
4. ひまわり		◎-10	◎-10	◎-10	30	
5. ライバル		◎-10	◎-10	◎-10	30	
6. ピヨ子		○-8	○-8	×-2	14	
7. 席をゆずられて		○-8	◎-10	○-8	26	
8. 虹の国—マンデラ		◎-10	◎-10	◎-10	30	
9. 風に立つライオン重		○-8	◎-10	◎-10	28	
10. 海と空—檉野の人々重		◎-10	◎-10	◎-10	30	
11. ベビーカー論争.		◎-10	◎-10	◎-10	30	

生命尊重、人権尊重の順に、短評を試みたい。道徳の教科書は年間35週、22の指導項目を実施しなくてはならない。今回いずれの教科書も2つの項目数が多いように見えるが、これは

私が15歳、中学3年生の視点に立った時に、生命尊重、人権尊重の項目として扱っても十分通用すると判断したためである。

廣濟堂あかつき 生命尊重

1. リクエスト

1つの嘘が次の嘘を呼び、真実を話そうとしたときには告げる相手が亡くなっていた。たわいのないはずの言葉が取り返しのつかないことになる。15歳の心をとらえて離さないだろう。

2. 誰かのために

実話の持つ、強い説得力。誰にでも起こりえる病気「がん」。多くの震災を経験し、コロナ禍の今、生命について誰もがその言動を、振り返る1つのきっかけになるであろう。

3. ひまわり

実話の持つ強い説得力に生徒はすぐに教材の中に引き込まれるであろう。そして、授業終了時に、「みんな違ってみんないい。オンリーワンでいい。1人ひとりがすべて尊いということに気が付くであろう。作者の感想文の写真も大変良い。

4. 母院と子のロードレース

実話の持つ強い説得力。命の尊厳さと母子の強い絆が生徒の心をとらえて離さないであろう。

5. ドナー

多くの教科書が取り上げている「ドナーカード」。教科書によって実例の提示の仕方に差がある。こちらの版は、もっと実例を取り上げてよかったのではないかな。

6. 風に立つライオン（さだまさし 詩）

一人の人の生き方が時に、他人の生き方に強い影響力を与える教材である。イラスト（写真？）も優れている。

7. ほっちゃん（サケの一生）

黙々と川を遡るサケの強い信念とその一生。改めて生命の尊さを考えずにはいられないであろう。

8. 海と空—檉野の人々—

実話の持つ強い説得力。しかも過去の出来事が、長い年月を経ても風化することなく別の実話に結びつくという不思議な構図となっている。人の心の真のやさしさと豊かさを感じずにはいられない教材である。

9. 高砂丸とポトマック川のこと

自分が死ぬかもしれないというときに、なぜ、アランドは次々と利己を捨て利他の行動に出たのであろうか。純粋な生徒の心に火をつけ熱き討論に持っていきたい。教師の指導力が問われるであろう。生徒の討論は尽きることはないであろう。

10. 千年先のふるさとへ

東日本大震災—誰もが忘れられない、忘れてはならない心の中の大きな記憶。「自分に何ができるか？」と動き出した同世代の言動が胸を打つ。では、この教材を読み、学んだ15歳の彼らは何ができるのか、何をすべきか。ぜひ、行動にまで結びつけるような指導が問われる。

廣濟堂あかつき 人権尊重

1. 山寺のびわの実

甚太と「山寺のおっさん」の軽妙な掛け合いから始まり、子供の心をずっと呼び込む「山寺のおっさん」の、実は深い優しさと愛情を知り、心変わりをしようと強い決意をする甚太。イラストも見事で生徒はわくわくしながら教師の判読を聞くであろう。快作。

2. 優しいうそ

全身麻痺となった「私」と「鬼の松瀬」のやりとりは、病気ということを忘れさせ、時に軽妙な笑いさえ感じさせる。深く直視し、底に溢れる真の優しさに気づくとき、生徒の心は救われるであろう。健常者（読者である生徒）が障害をもつ方達から救われるのである。

3. 卒業文集最後の二行

未だに多くの学校で止まぬ「いじめ」。この教材を道徳の時間だけにとどめず、特別活動や人権教育、社会科（日本史）等とクロスカリキュラム化し、差別することへの強い憤りと怒りを生徒全てが共有することでいじめは少しは減少傾向に向かうのではないだろうか。1学期、4月に中3だけにとどまらず、学校全体で展開したい教材と活動である。

4. ひまわり

実話の持つ強い説得力に生徒はすぐに教材の中に引き込まれるであろう。母と子の深い愛情が心に深く残る。そして、授業終了時に、「みんな違ってみんないい。オンリーワンでいい。1人ひとりがすべて尊いということに気が付くであろう。作者の感想文の写真もイラスト大変良い。

5. ライバル

中校生の部活動での体験に根ざしている本教材は、同様の活動をしている10代の心をすぐに捉えるであろう。過日、NHKのBSチャンネルで水泳の池江選手特集を放映していた。コーチの「お前の横にいる仲間は、試合ではライバルになる」の言葉を思い出す。友情と人権をセットにした優れた教材になっている。

6. ピヨ子

スマートフォンが中学生の生活を席捲している現在、この教材と同様の事件・事故は多くの学校で起こっているであろう。

内容はなかなか良質なものであるのに、そこに描かれているイラストは稚拙でしかない。今の15歳はもっと緻密で丁寧に描かれている漫画に鍛えられている。

7. 席を譲られて

混雑した電車やバスの中でよく見かける光景。国語の教材「夕焼け」にもなった。席の譲り合いの一コマ。SSTや役割演技でもよく使われている。同様の言動が自分にはできるだろうか？と問いかけているように思える。

8. 虹の国—ネルソン・マンデラー

実話の持つ強い説得力。誰もが知っているネルソン・マンデラー。虐げられてきた人生としかし彼の強い信念と行動力に胸を打たれ、15歳の彼らは何を、どうすることが最善か考えるであろう。

9. 風に立つライオン

一人の人の生き方が時に、他人の生き方に強い影響力を与える教材である。自国のみにとらわれず、海外に、海外の人々に眼を向けることでわかることがある。イラスト(写真?)

も優れている。

10. 海と空一極野の人々

実話の持つ強い説得力。しかも過去の出来事が、長い年月を経ても風化することなく別の実話に結びつくという不思議な構図となっている。内田が飯能市の中学校で担任をしていたときのことである。生徒にはイラン・イラク戦争は所詮遠い外国の話であったが、たまたま転校生の一人が自分の体験談を語った。

「私の父は商社の人間で、あとき私たちはイランの街中で暮らしていました。戦争が始まった頃、ミサイルが家の遙か遠い、高い処を飛び交い、まるで花火のようでした。戦争の恐ろしさなど全くわかっていませんでした。そのうちに、ミサイルがだんだんと家のすぐそばを飛び交うようになり、父が『ここに居ては危険だ。お前達だけは先に日本に帰りなさい。』と。それで私は今、ここに居るのです。」

すぐに、イラン・イラク戦争は私たちの共通の話題となった。

長い年月を経ても恩を忘れることのなかったトルコの人々。人の心の真のやさしさと豊かさを感じずにはいられない教材である。

11. ベビーカー論争

電車やバスの中で今でもどこかで起きているであろうトラブル？様々な事例を提示していることで生徒の討論も熱を帯びたモノになるであろう。将来母になるであろう女子と育児にあまり関わらない（と批難されている世の父親世代）男子との男女の差も話題になるであろう。

教育出版

教育出版 (編集委員 中学校 関係者 関係者 11人)	生命 尊 重	1. 父の一言	○-8	○-8	◎-10	26
		2. ハゲワシと少女	花丸-15	◎-10	花丸-15	◎40
		3. ニワトリ	◎-10	◎-10	×-2	18
		4. サルも人も愛した写真家	○-8	○-8	◎-10	26
		5. 死刑制度を考える	◎-10	◎-10	◎-10	30
		6. カーテンの向こう	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
		6. カーテンの向こう重	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
		7. ふきのとう重	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
		8. あふれる愛重	◎-10	◎-10	◎-10	30
		9. 家族との思い意思表示	◎-10	◎-10	○-8	28
		10. 憧れの消防団	◎-10	◎-10	×-2	18
11. 償い(さだまさし歌)	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35		
人権	1. ハゲワシと少女	花丸-15	◎-10	花丸-15	◎40	

尊 重	2.あなたは顔で差別しますか	◎-10	◎-10	◎-10	30
	3. 卒業文集最後の二行	花丸-15	◎-10	△-3	28
	4. 死刑制度を考える	◎-10	◎-10	△-6	26
	5. カーテンの向こう重	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
	6. ふきのとう重	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
	7. あふれる愛重	◎-10	◎-10	◎-10	30

教育出版 生命尊重

1. 父のひと言

あの上野動物園の元園長、中川史郎の若き日の実話である。人の命も、動物の命も等しく重いということを考えさせる内容である。父親からの言葉で目覚める下りは、命の尊厳と共に、親子の、血のつながりの大切さをも遠回しに語っている。イラストも良い。

2. ハゲワシと少女

5社の教材の中で、最も優れた「写真」教材である。やせこけてうずくまっている少女の後ろに1匹のハゲワシがたたずんでいる。ハゲワシの目には少女は一個の「餌」に写っているのだろうか。コメントも何もない。これほどまでに強くアピールしているこの写真を見た生徒は何を思うのだろうか。教師は余計なことをせずに、生徒の感想、討論に耳を傾けていればよいであろう。

3. ニワトリ

人の命も動物の命も等しく尊い。理屈ではわかっているが普段はそんなことはお構いなく、あの豚肉は美味しい、あのブランド産のニワトリのカシワはどうのと言い合っている私たち。私たちは、他の動物の命の犠牲の上に生きながらえているという事実をすっかり忘れていた。農業高校の実話である。自分が愛情を込めて育てたニワトリが「と畜」を迎える。(殺されること)。

以前、こんな話を伺った。埼玉県日高市にふりかけで有名な「のりたま」の工場がある。生まれてからずっと卵を産み続けてきた雌鳥が年をとり、産まなくなってくると、雌鳥は生まれて初めて「日の光」を感じる。卵を産ませ続ける工場から移されるからである。雌鳥はどうなると思うか？給食の時間にその後の顛末を話してあげた後、しばらく鶏肉を食べられなくなったという生徒が続出した。

もう1つ。内田が幼かった時、家にはニワトリが飼われていた。ある晩、お客さまが我が家を訪れ、食卓には豪勢な(当時の内田には感じた)すき焼きがならんだ。美味しかった。次の日、いつものように内田の役割であった鶏小屋の卵を取りにうかがうと、1匹減っている。父にどうしたのかたずねると「昨日、食べただろうが。一羽絞めてみんなで食べたんだよ。」と話してくれた。人は罪深いことになかなか気が付かない。

4. サルも人も愛した写真家

サルの命も人の命も等しく重いはずであるが、人は最後は自分の都合を優先する。生徒は、その言動をどう思うのだろうか。

5. 死刑制度を考える

よくこの題材を取り上げたものだと思う。15歳に対してリスペクトし、彼らならば十分に討論に持ち込めるという編集者の信念があるからだろう。残念なのは、その性質の故に、統計と説明のみの内容にしてしまったことは仕方のないことだろうか？ここ数年、多くの新聞がDVや実の父親からの性被害等の特集を組んでいる。実話のエピソードを提示することはできなかったのだろうか。

6. カーテンの向こう

道徳教材として今後もずっと残して欲しい教材である。イスラエルの重症患者のみが入れられている病室でのエピソードである。消えゆく命が同室の者たちにうその話を通して小さな灯火をともし続けている。生死と相まって、それは許されるべきか、それとも否か。生徒の討論は尽きることはないだろう。

7. ふきのとう

富む者も貧しき者も命は共に尊い。医師のいない山村で一人奮闘する若い保健師。彼女が尊敬してやまない「杉浦先生」はその貧しき者を救おうとし、無理がたたり、命を落としてしまう。命のはかなさ、軽さ、そして重さ。心に残る教材である。コロナ禍の今、誰もが命の有限性を感じているであろう。心して授業に臨みたい。生徒も教師も。

8. あふれる愛 (マザーテレサ)

マザーテレサの、利己を捨て、利他に生きるその揺るぎない精神。彼女の一貫した、迷うことのない言動について生徒に討論をさせたい。使用されている写真も申し分ない。

9. 家族との思いと意思表示カード

ドナーカードについて多くの教科書が教材として取り上げている。教出の本教材は、具体例の提示が少なく、これでは生徒も話し合いに加わりづらいのではないだろうか。

10. 憧れの消防団

命を守る仕事の尊さと過酷さ。内容的には全く申し分のないものである。それに反して描かれているイラストが内容を台無しにしてしまっている。なぜ、このイラストを採用したのか？15歳に対するリスペクトが感じられない。長く小学校の教諭を務めた方に見ていただいたところこれでは小学校の低中学年向きだと言われた。改編される際には是非差し替えてほしい。

11. 償い

ある投稿を基に、作成したとシンガーソングライターの、さだまさしは述べている。1つの歌の歌詞が、そのメロディーが道徳の教材になり得る、誠に優れた教材である。「ゆうちゃん」はある雨の日に車で人をはね、死なせてしまう。それからのゆうちゃんは、人が変わったように死にもものぐるいで働き送金を欠かさない。夫を奪われた奥さんからの手紙に涙するゆうちゃん。15歳は何を感じ、何を発言するだろうか。読み物教材として扱うか、モラル・ジレンマ教材として扱うか。教師の腕の見せ所である。

教育出版 人権尊重

1. ハゲワシと少女

5社の教材の中で、最も優れた「写真」教材である。やせこけてうずくまっている、おそらく長い間満足な食べ物を食べていないのであろう。疲れ切り、立つことさえままならない少女の後ろに1匹のハゲワシがたたずんでいる。ハゲワシの目には少女は一個の「餌」に写っているのだろうか。コメントも何もない。これほどまでに強くアピールし

ているこの写真を見た生徒は何を思うのだろうか。教師は余計なことをせずに、生徒の感想、討論に耳を傾けていればよいであろう。

2. あなたは顔で差別しますか

実話が示す、圧倒的なリアリティー。言葉の持つ、その強大な暴力性。私たちはどうすればよいのか。その判断をつきつけられている。

3. 卒業文集最後の二行

未だに多くの学校で止まぬ「いじめ」。この教材を道徳の時間だけにとどめず、特別活動や人権教育、社会科（日本史）等とクロスカリキュラム化し、差別することへの強い憤りと怒りを生徒全てが共有することでいじめは少しは減少傾向に向かうのではないだろうか。1学期、4月に中3だけにとどまらず、学校全体で展開したい教材と活動である。この教材は文科省版の教科書にも取り上げられ、その他多くの教科書にも掲載されている。しかし本教科書に描かれているイラストはまるでお人形のようにしかなく、せつかくの内容がこのイラストのため半減」してしまった。

4. 死刑制度を考える

よくこの題材を取り上げたものだと思う。15歳に対してリスペクトし、彼らならば十分に討論に持ち込めるという編集者の信念があるからだろう。残念なのは、その性質の故に、統計と説明のみの内容にしてしまったことは仕方のないことだろうか？ここ数年、多くの新聞がDVや実の父親からの性被害等の特集を組んでいる。実話のエピソードを提示することはできなかったのだろうか。

5. ふきのとう

富む者も貧しき者も命は共に尊い。医師のいない山村で一人奮闘する若い保健師。彼女が尊敬してやまない「杉浦先生」はその貧しき者を救おうとし、無理がたたり、命を落としてしまう。命のはかなさ、軽さ、そして重さ。心に残る教材である。コロナ禍の今、誰もが命の有限

性を感じているであろう。心して授業に臨みたい。生徒も教師も。

6. カーテンの向こう

道徳教材として今後もずっと残して欲しい教材である。イスラエルの重症患者のみが入られている病室でのエピソードである。消えゆく命が同室の者たちにうその話を通して小さな灯火をともし続けている。生死と相まって、それは許されるべきか、それとも否か。生徒の討論は尽きることはないだろう。

7. 溢れる愛

マザーテレサの、利己を捨て、利他に生きるその揺るぎない精神。彼女の一貫した、迷うことのない言動について生徒に討論をさせたい。使用されている写真も申し分ない。

東京書籍

東京 書籍	生 命 尊 重	1. 花火と灯ろう流し	◎-10	○-8	◎-10	28
		2. あなたはすごい力で	○△-6	◎-10	◎-10	26
		3. くちびるに歌をもて	◎-10	◎-10	△-3	23

(編集 委員) 中学 校 関係 者 17 人)	4. 人間の命とは	○△-6	○-8	△-6	20	
	5. 湖の伝説(三橋節子)	花丸-15	◎-10	花丸-15	◎40	
	6. たとえぼくに明日は	◎-10	◎-10	△-6	26	
	7. その子の世界、私の世界	花丸-15	◎-10	花丸-15	◎40	
	人権 尊重	1. 無実の罪	◎-10	◎-10	×-2	18
		2. ある日の午後から	◎-10	◎-10	○△-6	26
		3. いじめから目をそむけ	◎-10	◎-10	△-6	26
		4. 私を支えてくれた言葉	○-8	○-8	◎-10	26
		5. 埴生の宿	花丸-15	◎-10	◎-10	◎35
		6. 伝えたいことがある	◎-10	◎-10	◎-10	30
	7. その子の世界、私の世界	花丸-15	◎-10	花丸-15	◎40	
	8. そのこ(谷川俊太郎詩)	◎-10	◎-10	○-8	28	
	9. たんぼぼ作業所	○-8	◎-10	○-8	26	
	10. 命見つめて	◎-10	◎-10	◎-10	30	
	11. たとえぼくに明日は	◎-10	◎-10	△-5	26	

東京書籍 生命尊重

1. 花火と灯ろう流し

命について考える、こんなやり方もあるな、と感じさせる内容になっている。花火と灯ろう—あの世とこの世、彼岸と此岸。イラストも良い。

2. あなたはすごい力で生まれてきた

生命について、生と死について、赤ちゃんの誕生からしっかりと描かれている。どちらかといえば、朝の会や帰りの会、静かに朗読し、生徒に考えさせるのが良い。特に女子生徒の心には強くしみわたるであろう。

3. くちびるに歌をもて

命の、尊い重さ、あっけない軽さの両者について物語として描かれている。定期船と衝突し、漂流するローワン号の人たち。歌が人の命を次へとつなぐ、内容から目が離せない展開となっている。だからこそ、もっと真に迫ったイラストにできなかったのか、と思う。海に漂う人々はお人形にしか見えない。これでは逆効果ではないだろうか。

4. 人間の命とは

教材として描かれている内容は、アメリカでおこった実際の薬事事故を基にしており、薬物やアルコールと生命の因果関係について言及しており、良質な教材である。2ページ目の展開部分は、指導の流れを限定してしまい、やり方として過干渉ではないか。

5. 湖の伝説

生きるために壮絶に戦い抜いた三橋節子 の一生を描いた秀作教材である。「生きる」とは何か。ただ生きるのではなく、「芸術に生きる、絵画に生きる」ことをやめなかった

三橋節子と生涯励まし支え続けた夫とのドラマティックな生涯は、私たち一人一人は、人はかくあるべしと静かにしかし強く語りかけてくる。人生で初めて自らの生き方、進路を迫られる15歳に相応しい教材と言えよう。写真、生前に描かれた絵画と共に良い。

6. たとえぼくに明日はなくとも

筋ジストロフィーに犯された正一くんの、生まれてから生きることを意味を知った20代までを描いている。苦しくも心温まる教材である。私たちに何ができるのか、そう問いかけている教材である。

7. その子の世界、私の世界

写真の持つ、圧倒的迫力。被授業者である日本の中学生と同世代、あるいはもっと下の世代と同世代の十代の子らの、今の世界の一面を写真は静かにしかし強烈に語りかけてくる。機関銃を手にするあどけない顔。ゴミ捨て場で生まれた赤ん坊。等。写真は、恵まれた(本人は気が付いていない)国、日本で学び暮らす15歳の胸に迫る。

よくぞこれらの写真を載せてくれたと思う。

東京書籍 人権尊重

1. 無実の罪

学校の中で依然として減らないイジメ。問題提起としてわかりやすくマンガにしたのであろう。そのやり方そのものは評価されようが、もう少しマンガの質をどうにかできなかったのか。私は40年ほど前からマンガによる道徳教材を提唱してきたが、中学生が考えているレベルは高い。ストーリーがきっちりし、描かれる人物や背景も緻密で表情の機微も一目瞭然なものを生徒は受け入れてくれた。読み物教材であれ、マンガ教材であれ、「15歳が許容するレベル」の良いものだけが真の教材となりえるのだ。

2. ある日の午後から

学校の中での何気ない会話が発端となり、イジメへと変わっていく。本人にその気は無くとも手の施しようがない。何処の学校でも起こりえる内容がよく描かれている。この教材もイラストの説得力に欠ける。効果を狙うのであればもっと描き方があると思う。

3. いじめから目をそむけない

学活の教材ではないだろうか。また、展開がきっちりとしすぎており、建前論にならないだろうか。やはりイラストの説得力に欠ける。

4. 私を支えてくれた言葉

言葉の持つ力—それは暴力にもなれば勇気にもなる。友達の何気ない一言に落ち込んでみたり、勇気を奮い起こされたり。イジメの発端はほとんどが何気ない言葉で始まる。友情や思いやりも同様。

5. 埴生の宿

心に深くしみわたる教材である。小学生の事件がトラウマとなり、言葉を失ってしまう苑子。周囲の励まし、温かなまなざしで少しずつではあるが変容する姿が描かれている。こんな学級ばかりになればいいと感じさせる良質な教材。イラストも申し分ない。

6. 伝えたいことがある

第五福竜丸に材をとった実話である。世間の差別に屈することなく、戦い続ける乗組員の静かだが熱く強い意志の力や行動に誰もが引き込まれるであろう。東日本大震災を経験し、いまなお故郷に帰れない人たちがいる私たちだからこそ、綿密な指導力とそれに応え

る生徒の熱い討論を期待したい。写真、イラスト共に良い仕上がりである。

7. その子の世界、私の世界

写真の持つ、圧倒的迫力。被授業者である日本の中学生と同世代、あるいはもっと下の世代と同世代の十代の子らの、今の世界の一断面を写真は静かにしかし強烈に語りかけてくる。機関銃を手にするあどけない顔。ゴミ捨て場で生まれた赤ん坊。等。写真は、恵まれた（本人は気が付いていない）国、日本で学び暮らす15歳の胸に迫る。人は生まれた国や地域で差別されなければならないのか。いや、違う。しかし現実には肯定せざるをえない。よくぞこれらの写真を載せてくれたと思う。

8. そのこ（谷川俊太郎 詩）

前作の圧倒的な写真教材から一転して詩の世界へ。しかし、読み進むうちに、前作と同様の内容に気付く。15歳はどんな発言をしてくれるのだろうか。期待に胸が膨らむ。

9. たんぼぼ作業所

障害のある主人公に「待ってあげる」援助を続ける周囲の温かな交流を描いた教材である。日本中の学校がこのようになれば、言葉の持つ力がこのようであれば、と感じさせる教材である。

10. 命見つめて

戦争体験を通しての日本とオランダの厳しくも、しかし、ほの温かい交流を描いた秀作である。戦争について私たちはもっと語り合うべきではないか。そして、戦争は内戦、反乱、等形を変えて世界のいたるところでおこっている。社会科の公民や歴史、特別活動とクロスカリキュラム化して学ばせたい教材である。

11. たとえぼくに明日はなくとも

筋ジストロフィーに犯された正一くんの、生まれてから生きることの意味を知った20代までを描いている。苦しくも心温まる教材である。私たちに何ができるのか、そう問いかけている教材である。

Gakken

Gakken (編集 委員)	生命 尊重	1. 国際協力師山本敏晴	◎-10	◎-10	◎-10	30
		2. 余命ゼロ命のメッセージ	◎-10	○-8	○-8	26
		3. はるかなる命の物語	◎-10	◎-10	◎-10	30
		4. 忘れられないご馳走	◎-10	◎-10	◎-10	30
		5. あなたの命は誰のもの	花丸-15	◎-10	○-8	33
中学校 関係者 13人)	人権 尊重	1. 思い出のオムライス	◎-10	◎-10	◎-10	30
		2. 卒業文集最後の二行	花丸-15	◎-10	○-8	◎33
		3. 五井先生と太郎	花丸-15	◎-10	◎-10	◎45

Gakken 生命尊重

1. 国際協力師 山本敏晴

実話に基づいた、国際協力現場で働く山本敏晴。壮絶な、そして理にかなった体験談である。人の命の重さは国によって違ってはならないが、現実はそうでないことを突きつけられ得る。15歳の中には、将来を見据え、諸外国で働きたいと考えている生徒もあろう。彼らの、生命や差別についての熱い討論を期待したい。

2. 余命ゼロ 命のメッセージ

限りある命について渡部成俊さん本人の思いが語られている。命は有限であるということに15歳はなかなか気付きにくい。道德の授業より、帰りの会などでの朗読が相応しいのではないだろうか。

3. はるかなる生命の物語

命の有限性を、命は限りあるものということを感じさせる優れた教材である。ただし、この教材で生徒にどう考えさせ、討論を試みさせたいかとなると、大変難しい。道德の授業より、帰りの会などでの朗読が相応しいのではないだろうか。

4. 忘れられないご馳走

命は有限であり、私たち人間は他の生物の命をいただくことで自分たちの「生」を享受している。そのことに気付かせたい。牛、豚、鳥。近所のスーパーや肉屋さんで売られている「塊」と化したもの。それらはいつ最近まで生きていたものだ。そこに気付いたとき生徒の生き方まで変容するのではないか。

5. あなたの命は誰のもの

ドナーカードを扱った教材は多くの教科書で取り上げられているが、本教科書の教材が最も多くの具体事例を載せており(6名分)、命の尊厳について静かだが心のこもった熱い討論が期待できる。

Gakken 人権尊重

1. 思い出のオムライス

誰かに対しての差別ではない。弱い自分に対しての差別である。そして厳しくも温かな母の愛情との交流である。生徒の心に残る教材となろう。

2. 卒業文集最後の二行

未だに多くの学校で止まぬ「いじめ」。この教材を道德の時間だけにとどめず、特別活動や人権教育、社会科(日本史)等とクロスカリキュラム化し、差別することへの強い憤りと怒りを生徒全てが共有することでいじめは少しは減少傾向に向かうのではないだろうか。1学期、4月に中3だけにとどまらず、学校全体で展開したい教材と活動である。この教材は文科省版の教科書にも取り上げられ、その他多くの教科書にも掲載されている。ただイラストが今ひとつ説得力に欠ける。せつかくの教材だからこそ、惜しまれてならない。

3. 五井先生と太郎

この教材の骨子となっている、複数の価値が交錯し、半端な浅い読み込みではこの教材の訴え、良さを理解できない。指導する側もしっかりと準備し、授業に臨みたい。進路を控える、差別意識や正義感の高まる15歳に相応しい教材である。入念な発問とそれに呼応した生徒の熱い討論が間違いなく期待できよう。

日本文教出版

日本文教出版 (編集委員)	生命 尊重	1. 風に立つライオン	○-8	◎-10	○-8	26
		2. 命のトランジットビザ	花丸-15(全文掲載)	◎-10	◎-10	◎ 35
		3. エリカ-奇跡のいのち	◎-10	◎-10	◎-10	30
		4. 臓器ドナー	◎-10	○-8(指導指示多し)	○-8	26
		5. 命の大切さ重	◎-10	◎-10	○-8(3ページ目)	28
		6. マタニティマーク	◎-10	◎-10	◎-10	30
中学校 関係者 3人)	人権 尊重	1. 風に立つライオン重	○-8	◎-10	◎-10	28
		2. 卒業文集最後の二行	花丸-15	○-8(指導指示多し)	◎-10	◎ 33
		3. 私たちはなぜ人を攻撃	○-8	△-5(指導指示多し)	○-8	21
		4. 命のトランジットビザ	花丸-15(全文掲載)	◎-10	◎-10	◎ 35
		5. エリカ-奇跡のいのち	◎-10	◎-10	◎-10	30
		6. 命の大切さ重	◎-10	◎-10	○-8(3ページ目)	28
		7. 塩むすび	◎-10	◎-10	◎-10	30
		8. 世界を動かした美	○-8	○-8	◎-10	26

日本文教出版 生命尊重

1. 風に立つライオン

一人の人の生き方が時に、他人の生き方に強い影響力を与える教材である。自国のみにとらわれず、海外に、海外の人々に眼を向けることでわかることがある。イラスト・写真も優れている。

2. 命のトランジットビザ

杉原千畝の言動について扱った教材は多いがその中でも本教材が詳細な描写を掲載した点は高く評価できる。本教材の次に掲載されている「エリカ」と対で学ばせることで戦争の愚かさ、命の尊さが浮き彫りにされてくる。国の命令に違反してまでユダヤの人々の命を救おうとした杉原の覚悟。日本に戻れば厳しい処分も覚悟の上であったろう。「行動に移す」ことの大切さを私たちに問いかけている。

3. エリカ

前教材の「命のトランジットビザ」はユダヤ人を救おうとした立場から描かれたものであり、本教材は、收容され奇跡的に助かることができたユダヤ人の目線で綴られた実話である。戦後70数年を経た日本人には戦争は遠い国のことのようにであるが、実はそうではないことを2つの教材は教えてくれる。指導する教師も心して臨みたい教材である。

4. 臓器ドナー

ドナーカードを扱った教材は多いが、本教材は、もう少し具体事例を載せてもよいのではないか。また、この教材に限らず、本教科書の特徴のようであるが、展開の仕方が細かく例示され、過干渉のように感じてしまう。13歳、中1の教科書ならばそれでよいであろうが、15歳、中3である。もっと彼らの討論に任せてもよいのではないか。

5. 命の大切さ

埼玉県にも「院内学級」のある病院が存在する。誰もが健常者ではなく、目や耳や体に障害や病気を抱えた10代は決して少なくはない。そういった事実を知らないことから生まれる葛藤や差別。広い視野を持つことを論してくれる教材である。

6. マタニティマーク

1枚の写真、1つのマークからも道德の授業はできる。その優れた事例である。しかもそこには「読み物教材」もセットされており、「新しい教材」を予感させる好例となっている。

日本文教出版 人権尊重

1. 風に立つライオン

一人の人の生き方が時に、他人の生き方に強い影響力を与える教材である。自国のみにとらわれず、海外に、海外の人々に眼を向けることでわかることがある。イラスト・写真も優れている。

2. 卒業文集最後の二行

文科省版も含め、多くの教科書で取り上げている秀逸な教材である。未だに多くの学校で止まぬ「いじめ」。この教材を道德の時間だけにとどめず、特別活動や人権教育、社会科（日本史）等とクロスカリキュラム化し、差別することへの強い憤りと怒りを生徒全てが共有することでいじめは少しは減少傾向に向かうのではないだろうか。1学期、4月に中3だけにとどまらず、学校全体で展開したい教材と活動である。イラストは最も適していると思える。文章からもイラストからも生徒はその内容に引きつけられるであろう。

3. 私たちは、なぜ人を攻撃するの？

SST（ソーシャルスキルトレーニング）としての道德教材ならばよい。学級活動として扱ってみてはどうであろうか。

4. 命のトランジットビザ

杉原千畝の言動について扱った教材は多いがその中でも本教材が詳細な描写を掲載した点は高く評価できる。本教材の次に掲載されている「エリカ」と対で学ばせることで戦争の愚かさ、命の尊さが浮き彫りにされてくる。国の命令に違反してまでユダヤの人々の命を救おうとした杉原の覚悟。日本に戻れば厳しい処分も覚悟の上であったろう。「行動に移す」ことの大切さを私たちに問いかけている。

5. エリカー奇跡のいのち

前教材の「命のトランジットビザ」はユダヤ人を救おうとした立場から描かれたものであり、本教材は、収容され奇跡的に助かることができたユダヤ人の目線で綴られた実話である。人は自分の人種を望んで生まれることはできない。ユダヤ人だからということだけでなぜ、差別され迫害されるのか。学校内で止まぬイジメと共通する。指導する教師も心して臨みたい教材である。

6. 命の大切さ

私が小学生の時、いつも空いている机が1つあった。体が弱かったクラスメートは病院のベッドにいる時間の方が長かった。学級担任は音楽で彼女の心を癒やそうと提案し、恐らく病院と面倒な折衝をし、演奏会にこぎつけた。人は、誰もが健常者ではなく、目や耳や体に障害や病気を抱えた10代は決して少なくはない。そういった事実を知らないことから生まれる葛藤や差別。広い視野を持つことを諭してくれる教材である。

7. 塩むすび

公平、公正とはなにか？東日本大震災の避難所である風景。そこには「利他」に徹する心温まる多くのエピソードが生まれ、その源はたった1杯の温かな味噌汁と熱々の塩むすびである。生きることの、喜びの原点が食事であることを痛感させてくれる教材である。

8. 世界を動かした美

オードリー・ヘップバーン。知らぬ者のない、世紀のフィルムスター。私たちが知っている銀幕上の彼女。しばらくして私たちが目にした彼女は年を経て、顔には皺がある、しかし溢れんばかりの笑顔に溢れた「利他」の心に満ちた姿である。人の幸せとは何か。どうすることで心が満たされるのか。可能ならば、彼女の作品、「ローマの休日」や「マイ・フェア・レディ」を鑑賞させた後、この教材での授業が良い。脚光をあびた人間がなぜ、これほどまでに変容できたのか。生徒の議論は尽きないだろう。

4. 最後に

総合的な見地から5社の教科書について論評する。

1) 廣済堂あかつき

編集委員は代表が横山利弘元関西大学院教授で、元、現中学校関係者が17名中12名と70%を占めている。今回取り上げた2つの指導項目以外でも、「月明かりで見送った夜汽車」「元さんと二通の手紙」「二人の弟子」「ある元旦のこと」「運命の木一姫路城の大柱」35週目にあたる、最後の教材・詩「二度とない人生だから」など秀逸な教材で埋め尽くされている。中学生の気質、心情をよく知り抜いた方達で構成されていたと考えられる。15歳の心を捕らえて離さないであろう。この教科書からどれほど多くの生徒の心が育まれるか。楽しみである。また、見落としがちであるが、紙質にも注目したい。こちらの教科書は光沢紙を使用していない。長時間目を通していても、疲れづらい。こんな点も大切である。

2) 教育出版

編集委員は代表が、林 泰成上越教育大学教授、貝塚茂樹武蔵野大学教授、柳沼良太岐阜大学大学院教授で元、現中学校関係者が19名中11名と53%を占めている。今回取り上

げた2つの指導項目以外でも「平和への願い」「二通の手紙」「鳩が飛び立つ日」「テーブルの卵焼き」「音楽は対話の始まり」等秀逸な作品が多い。15歳の心に訴えかける教材も多く、まだまだ改善すべき点はあるが、教科書として十分彼らの期待に応えているといえるだろう。紙質だが、やや光沢のある紙質であろうか、写真やイラストが光りに反射しやや見えづらいのが残念ではある。こんな細かな点も見過ごしてはならないだろう。

3) 東京書籍

編集委員は代表が、渡辺 満広島文化学園大学教授、押谷由夫武庫川女子大学大学院教授で、元、現中学校関係者が31名中17名と55%を占めている。今回取り上げた2つの指導項目以外でも、「一冊の漫画雑誌」「早朝ドリブル」「背筋をのぼして」「好きな仕事か安定かなやんでいる」「缶コーヒー」「寄りそう中で」「足袋の季節」(こちらはかつてのイラストをそのままセピア色のまま残した)「よみがえれ、日本海」「廃品回収で学んだこと」「二通の手紙」等秀逸な作品が多い。特に、「足袋の季節」のように良い教材はそのまま残すという矜持を感じる。また、イラストもこのようなものがイラストのお手本である。中学生の気質、心情をよく知り抜いた方達で構成されていたと考えられる。15歳の心を捕らえて離さないであろう。紙質だが、やや光沢のある紙質であろうか、写真やイラストが光りに反射しやや見えづらいのが残念ではある。こんな点も15歳は厳しい。

4) Gakken

編集委員は代表が、永田繁雄東京学芸大学大学院教授で、元、現中学校関係者が23名中13名と57%を占めている。今回取り上げた2つの指導項目以外でも、「二人の弟子」「笛」「一冊のノート」「二通の手紙」「卒業文集最後の二行」など秀逸な作品がある。紙質だが、やや光沢のある紙質であろうか、写真やイラストが光りに反射しやや見えづらいのが残念ではある。また、気になったのが教科書の版の大きさである。こちらの教科書のみA4版を用いているのだが、正直使いづらいのではないか。また、全体を通して使用されているイラストが小学校の低中学年向きに感じられ15歳をリスペクトしているのだろうかと感じてしまう。尊敬してやまない永田繁雄教授が代表者であるだけに、また埼玉県では多くの市町村が、私が新任の頃より採用している。今後期待したい。

5) 日本文教出版

編集委員は代表が、吉澤良保東京純心大学特任教授で、元、現中学校関係者が19名中6名と32%を占めている。今回取り上げた2つの指導項目以外でも「出迎え三步、見送り七歩」「一冊のノート」「新しい夏のはじまり」「稲むらの火・余話」「言葉の向こうに」「二通の手紙」「ゴリラのまねをした彼女が好きになった」「私も高校生」など秀逸な作品がある。現場の状況を把握する編集者が少ないにもかかわらず、15歳の気質や心情を反映した教材が多かったのはさすがである。紙質だが、やや光沢のある紙質であろうか、写真やイラストが光りに反射しやや見えづらいのが残念ではある。また、全体を通して使用されているイラストが小学校の低中学年向きに感じられ15歳をリスペクトしているのだろうかと感じてしまう。せつかく内容の質が高いだけに惜しまれてならない。

5社を拝見、拝読し、15歳の中学生の視点で観たときに、100点満点の教科書はなかったが、十分満足に値する教材を多く扱っていた点は高く評価したい。読み物教材は編集会議でその内

容についてかなり厳しい議論が交わされその競争を勝ち抜いたモノだけが掲載されたと推測する。指導過程で他の方法を、と言われている「読み物教材」を多く扱っている教科書が多いが、私は、基本の教材はこれで良いと考える。読み物教材を十分に扱える指導力がついた、そのときに他の指導方法を試してみるのがよいのではないか。この点についてはご指導、ご鞭撻を乞うばかりである。

また、5社の教科書のイラストや紙質について一言。イラストや紙質までは深い検討がなされたのかといえば疑問の余地が残る。15歳をもっと尊重し、対等な目線を持って授業に臨む時、教材の質はもっともっと高めなければならない(イラスト、紙質を含めて)。自分もかつて某社の編集委員として関わっていただけに、もっと頑張ってもらいたいと願わずにはいられない。

5社、175の教材を拝読し、あらためて道徳のすばらしさを感じ、これからの教育現場を担う若き教師達の指導で利他の心が育まれ、行動が当たり前実践できる生徒が増えることを切に願わずにはいられない。また、コロナ禍の中で、心の荒廃と、逆にこんな言動を実践できる人たちがいることを、マスコミ等で知ることができた。道徳教育を義務教育課程の小中学校だけでなく、高等学校まで必修にすべき時がきているように思う。他者への配慮が当たり前実践でき、礼儀に秀でる日本人だからこそ、15歳までに限らず、多感な16~18歳にも道徳の時間を楽しんで欲しいと切に願う次第である。

参考文献

- 1) 中学生の道徳 自分をのばす3 廣済堂あかつき 横山利弘 他
- 2) とびだそう未来へ 中学道徳3 教育出版 林 泰成 他
- 3) 新しい道徳3 東京書籍 渡邊 満 他
- 4) 中学生の道徳 明日への扉3 Gakken 永田繁雄 他
- 5) 中学道徳 あすを生きる3 日本文教出版 越智 貢 他
- 6) 中学校学習指導要領 平成29年告示 文部科学省
- 7) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 文部科学省
- 8) 私たちの道徳 中学校 文部科学省
- 9) 道徳教育を学ぶための重要項目100 教育出版 貝塚茂樹 他
- 10) 学校の「当たり前」をやめた。時事通信社 工藤勇一著 2019年5月
- 11) 虐待が脳を変える 新曜社 友田明美・藤沢玲子著 2018年1月
- 12) 道徳授業の新しいアプローチ10 明治図書 諸富祥彦 編著 2005年5月
- 13) ひとりひとりを生かす授業—カルテと座席表— 明治図書 上田薫著 1982年3月
- 14) 個が生きる中学校 明治図書 上田薫著 1979年2月
- 15) 新編 道徳自作資料選集 中学校2 明治図書 井上治郎編著 1990年3月
- 16) 道徳の時代をつくる!—道徳教科化への指導—教育出版 押谷由夫他 2015年1月
- 17) 世界を見る目が変わる50の事実 草始社 ジェシカ・ウィリアムズ酒井泰介訳 2006年5月
- 18) もの食う人々 共同通信社 辺見庸著 1994年6月
- 19) 命の授業—道徳教育の改革をめざして 明治図書 深澤 久編著 1990年2月
- 20) この国のけじめ 文藝春秋社 藤原正彦著 2006年4月

- 2 1) 岳 1~18 小学館 石塚真一著 2005年~2012年9月
- 2 2) 昭和史 1926⇒1945 平凡社 半藤一利 2009年6月
- 2 3) 昭和史 1945⇒1989 戦後編 平凡社 半藤一利 2009年6月
- 2 4) こども六法 弘文堂 山崎聡一郎 2019年8月